

手術の対象となる病気の例



鼠径ヘルニア

腹部の筋肉の薄い部分から腸などが皮膚の下まで脱出し瘤を作る病気

痔核(いぼ痔)

痔の一種で、肛門内外の組織が膨らみ、瘤を作る

下肢静脈瘤

足の静脈の血液が逆流し、瘤を生じる

胆石

肝臓から出される胆汁の成分が胆管や胆のう内で固まる



ここまで進んだ

日帰り手術

近年、クリニックを中心として、鼠径ヘルニアや痔、下肢静脈瘤、胆石など、良性疾患の手術を日帰りで行う医療機関が見られるようになった。その利点やどのように医療機関を選んでいくとよいのか、話を聞いた。



執行クリニック
理事長
しげょうともしげ
執行 友成

社会的なニーズや 技術の進歩で普及

病院で行われ、ある程度まとまった入院時間が必要となる手術に対して、かつてはそうしたイメージが持たれていた。ところが、現在では、鼠径ヘルニアや下肢静脈瘤、痔など、一部の良性疾患に対する手術は、「日帰り手術」として行われ、しかもクリニックで提供されることも増えている。「日帰り手術」の、日本における定義は、24時間以内に退院する手術のことです。なお、世界では同日の退院と、一泊の入院での退院にカテゴリー分けされています。それは、患者の病態に加え、日常生活の要因、要望に応じて使い分けられています」と、執行友成医師は説明する。

日帰り手術が注目されるようになった背景として、一つは、多忙な社会人など、入院期間を

生活面、経済面で メリットが大きい

十分に取ることができない人から、早期復帰できる手術が求められていたことがある。それに加え、2014年の診療報酬改定で治療費が算定されるようになったことも大きい。また、技術的な進歩も関わっている。鼠径ヘルニアや下肢静脈瘤などで、小さな切開で済む術式、もしくはほとんど切開しない術式が登場し、合併症をより抑えられるようになってきたのだ。

「現在では、良性疾患の8割から9割は日帰りでの手術が可能になっています。実際、アメリカでは85%以上が日帰りで行われているのです」。こうしたさまざまな要因から、外科医がクリニックを開業する際、日帰り手術を提供するようになっていったのだという。

日帰り手術のメリットとし

て、当然ながら、日常生活をほとんど変えることなく、スケジュールを手術日にあわせて空けるだけで済む点が挙げられる。「長年悩んできた鼠径ヘルニアや下肢静脈瘤、痔などがその日のうちに治り、翌日は通常のお仕事など、日常生活に戻れる。それが非常に大きなことではない」と執行医師。痛みは残るが、十分な質で手術が行われれば、鎮痛のための座薬を使ったり、何日も休んだりするほどの重さにはならないという。もう一つ大きなメリットとして、経済的負担を抑えられることが挙げられる。まずは、当然ながら入院に伴う費用が抑えられる。そして、特にクリニックにおいては、厚生労働省の診療報酬制度上、病院よりも少ない治療費で受けられるようになっていくという。

ただ、体への負担が少ないとは言え、手術であることには変